

組織機構検討の基本的考え方(案)

【基本方針】

今後、財政状況が厳しさを増す中で、行政ニーズの量的拡大、質的高度化・多様化に適切に対応していくため庄内南部市町村の合併を進め、行財政改革を図りながら、次の4つを柱に行政基盤や業務執行体制の再構築を目指す。

- (1) 効率的な執行体制づくり
- (2) 人材育成の推進
- (3) 行財政改革の推進
- (4) 市民との協働の推進

【目標】

組織のスリム化・再編成による効率化や専門能力の結集・向上による行政機能強化を図り、良質なサービスの提供に努めていく。

【本庁舎・地域庁舎のあり方】

利便性の確保

住民に身近な行政サービスは、これまでと同様に享受できるよう配慮する。

機能の分担・強化

現在の鶴岡市役所を本庁舎に、各町村役場を地域庁舎として活用しますが、まず窓口サービス機能やそれぞれの地域活動の支援等については現在の市役所・各役場で、全市的な中枢管理機能は本庁舎で担い行政機能の分担を図る。この際、適正な運用を図るため庁舎間のネットワーク化など情報通信網の整備、職員の資質向上、必要に応じ出前サービス等の検討をしながら、機動的な業務執行を図っていく。

合理性・効率性

管理統括部門の縮小合理化、ITの活用による事務の効率化を進めて組織のスリム化を図るとともに、公的サービスの民間委託化等による直接サービス部門を縮小する一方、政策立案能力の結集・向上により行政の中枢機能を高め、市民や民間との新たな協調関係を築きながらニーズに応えていく。

地域への配慮

生活や地域活動、コミュニティなどの基盤をなす圏域との協調・連携を密にしながら、個々の地域における魅力を高めていくことに配慮し、全庁が一体となって良質な行政サービスを提供していく。

段階的整備

行政基盤や業務執行体制の再構築は、標準的な構想を念頭にできる限り速やかに実現を目指す必要があるが、なお、その際これまでの各市町村における施策の経過や改革への熟度を勘案し、住民の立場に配慮して段階的に整備を図っていく。

【具体的組織化について】

庁舎は、現在の7つの市町村役場を活用するため分散することになるが、高度で多様な行政サービスを提供する一つの行政体として能率的、効率的に機能するよう職務の体系を設計していく。

具体的組織化については、現在、各市町村で行われている仕事の実態調査を進めており、その結果を踏まえて事務分担と権限を整理し、全体の組織体系をまとめていく。特に事務分担は、組織の効率化と機能強化に大きく影響するため、実際どこでどのような実務が行われているのか、その実務の流れや業務量はどのような詳細な把握が必要であり、膨大な作業であるが現在調査中である。調査に基づく事務の統合分担等の検討は、先の基本的考え方に沿って行っていくが、例えば、給与事務など各市町村に共通する仕事は一つの組織に一元化してはどうかとか、住民票や戸籍関係の証明書などはどの役場庁舎でも交付を受けられるようにしてはどうかとか、出生届と母子手帳、母子健康相談など関連する窓口は庁舎内でできるだけ一つに集約して利便性を高めてはどうかとか、それぞれ具体的に調整していく。

なお、下記は、行政が住民の日常生活に責務を果たす上で基本と思われる組織をイメージしたものである。

組織イメージ(素案)

